

## 医政メモ



### 「骨太の方針2008年」

政府は6月27日の臨時閣議で福田政権になって初めての「骨太の方針2008年」を閣議決定した。今回も昨年同様経済財政諮問会議の答申をすんなりと了承したこと、「骨なしの骨太方針」などと一部マスコミに揶揄された面もあるが、その詳細について昨年との比較を交えながら解説を試みる。

**Q：今年の最大の関心事は**

**A：**小泉、安倍両政権から続く医療費歳出削減路線である、社会保障費の年間2200億円の削減についてどんなブレーキがかかるのか今回の最大の関心事であったわけであるが、残念ながら削減に強く反対を表明していた日医の主張は通らず、「最大限の削減は堅持する」との文言を残した。さらに政府は「国民のニーズが高い社会保障分野には財源を捻出してしっかりと対応したい」と福田首相のコメントを発表したが、従来から続く財界頼りの体質と保険料の値上げなどで国民に負担を強いることには変わりなく、今後に向けて財政の健全化が遂行できるかどうか、はなはだ疑問が残った。これを受けて日医は2009年度予算のシーリングに2200億円の伸びの抑制が明記される可能性があるとの見解を示し、今後国民医療推進協議会の総決起大会を開催するなど、抑制撤廃に向けて徹底抗戦する構えであることを表明した。また、日医の提案する社会保障費の財源確保では国民医療費に対する割合が減少している事業主負担の見直しや被用者保険の保険料率の公平化など、公的医療保険を再構築すべきとの考えを示した。

**Q：その他の関心事は**

**A：**医学部定員については「これまでの閣議

決定に代わる新しい医師養成のあり方を確立する」と記載された。さらに、今回の方針では、全国で年間約500人を増員し、質の高い医療と介護サービスの確保をはかり、医師不足解消を図ることとした。これに対して日医の竹嶋副会長は講演のなかで、「医師不足の直接的な原因は新医師臨床研修制度だが、根本的な原因は社会保障費の機械的な削減だ」と述べ、健全な医業経営の維持が困難になり、地域医療の確保が脅かされている現状では、医師不足問題は待ったなしの喫緊の課題であるとの認識を示した。

**Q：マスコミ一般紙の評価はどうであったか**

**A：**財界寄りの新聞である日本経済新聞の社説では、今回の「骨太方針」は小泉政権時代から比べると改革の司令塔としての性格は薄くなり、単なる予算請求書に変質したと、改革の後退に失望し、福田カラーの乏しさに疑問を投げかけた。さらに読売新聞では、「骨太の方針、福田色を打ち出せず—財源調整の先送り」との見出しからみても、福田政権の自民党内での力不足を指摘し、年末の予算編成に火種を残したとの見解を示した。

**Q：福田政権の今後はどうか**

**A：**結局のところ、今回の骨太の方針は、財務省主導の「歳出削減堅持」だけが目立ち、総花的で内容の乏しいものに終わった。これでは日医、与党とも不満を多くした感が強い。現政権が新たな抜本的な方策が打ち出せないようでは、国民の反発は収まらず、国会運営上も多難を極めるものと思われる。

(政策部担当理事 水谷 匡宏)